

# 扉

日本フレンズ奉仕団ニュース

新しい福祉サービスの創造へ  
TOBIRA

第 6 号

2021年3月1日発行



## コロナ禍における各事業所の取り組み

- 8mm先のぬくもりを感じて フレンズホーム .....2  
外出自粛によるQOLの低下 フレンズ介護保険サービス
- コロナ禍における活動風景 通所介護事業所 .....3
- おうちでつながろうプロジェクト あんしんすこやかセンター.....4





## ガラス越しの面会 ～ 8mm先のぬくもりを感じて ～

「お待たせしました。ようやくご家族の面会中止を解禁することになりました」  
 そんな文章がフレンズ便り『そよかぜ』のコラムに掲載されたのは約半年前のことでした。  
 「新型コロナ感染防止のため、面会を中止する」誰も予測できなかったことだったのではないのでしょうか。  
 緊急事態宣言解除後も、連日、新型コロナに関する報道が各種メディアで取り上げられ、「終息は遠い未来の話」と誰もが「新型コロナとの共存する」方法を模索し始めた頃。新型コロナの施設内感染防止に、フレンズホームのスタッフは一丸となって取り組み、今日現在も、その緊張感と向き合い続けています。  
 そんな中、フレンズホームも新型コロナと共存するという方法を模索し、そのひとつとして、感染症予防対策を行った上での面会を再開するに至りました。再開するにあたり、TV電話などによるリモートでの面会という選択肢もありましたが、フレンズホームの1Fロビーには、対面式の面会に適したガラスで仕切られた空間があり、そこにご家族を案内して面会を行うことしました。

### ガラスの厚さは約8ミリ

これまで、何の隔たりもなく面会を行ってきた、入居者、ご家族。そして職員にとって、この8ミリの厚さはどう感じられたのでしょうか。

面会中、入居者とご家族がガラス越しに、お互いの手を合わせる光景を目にします。  
 この光景が、普段の面会風景になるのか。それとも、いままで通りの日常的な面会風景に戻れるのか。

ガラス越しに伝わるお互いのぬくもりを少しでも感じようとする姿を見て、私たち職員は、今できることを実践していきます。(2020.7)

フレンズホーム



## 外出自粛によるADLの低下 ～ デイホームを利用する意味 ～

コロナによる外出の自粛と猛暑も重なり、今年の夏は体調を崩されるご利用者が多く。ケアマネージャーの訪問頻度が例年になく増えました。また、デイサービスを利用するといった、外出をするサービスではなく、どちらかと言うと、外出を控えて、在宅でのサービスを受ける方が増えてきたのも事実です。コロナ感染症の状況から考えれば、仕方がない選択とは思いますが、外出を避けたご利用者は筋力低下や認知症進行が顕著に見られたのも事実です。高齢者の場合、一度、低下した筋力をもとの状態に戻すのに若い人の倍以上の時間がかかります。また、一度進行してしまった認知症状は、なかなか元の状態には戻りません。自宅でのサービスには限界があるため、いかに高齢者の**QOLを維持**するためには、デイサービスなど外出する機会が大事か。ケアマネージャーとして今後のプラン作成に考えさせられる状況になってまいりました。  
 (2020.8)

フレンズ介護保険サービス 管理者 市村 龍子



## コロナ禍での活動風景 ～withコロナの中で見つけたもの～

### ●フレンズケアセンター【食を届ける意味】

通所介護3事業所は世田谷区からの委託事業として、独居や高齢者世帯に夕食を届ける配食サービスを実施しています。

ちょうど緊急事態宣言が発出されたころ、配食サービスご利用者のAさんがコロナへの感染を疑われる症状があり、感染症予防の観点から配食サービスも中止せざるを得ない状況でしたが、手渡しではなく玄関わきに置いてくる使い捨て容器を使用する、安否確認は電話で行うなど、配達方法を検討し、Aさんにとって唯一の社会とのつながりである配食サービスを維持することに努めました。お弁当の受け渡し場所には、いつもAさんからのメッセージ。コロナ禍での不安の中、**人と人のつながり**がいかに大事かを改めて感じることができました。(2020.5)

フレンズケアセンター 所長 石崎 三郎



### ●デイ・ホーム上馬【先生は利用者！】

当事業所では楽しみながら自立支援につながる活動ができることを目標にしており、これまでは近隣住民、学生ボランティアをはじめ、外部講師に活動を支援していただく機会が多く、年間平均で100人近いボランティアを受け入れ、それが活動の原動力になっておりましたが、感染症防止対策ため、現在は外部の方の入室を制限せざるを得ない状況が続いています。どのようにしたら、今まで通りの活動を提供できるかに頭を悩ませていた時、お茶や踊りの得意なご利用者、お裁縫やピアノが得意なご利用者など、目の前のご利用者の中に『先生』が沢山いることに気が付きました。

得意分野を披露する達成感からご利用者の笑顔も多くなり、いつもは提供される側のご利用者が提供する側になることで、和気あいあいとした雰囲気の中、ご利用者同士の親密度も上がりました。

環境の変化に左右されず通所を継続し、心身の健康を維持するためには今まで通りの活動提供は無理であっても、**前向きな心掛け**と適切な対応が必要だと、改めてご利用者から学びました。(2020.5)

デイ・ホーム上馬 生活相談員 澤田 朋代



### ●デイ・ホーム中丸【盆踊り大会withコロナ】

中丸の盆踊り大会は、普段は広く感じるダイルームが狭く感じるほど、ボランティアさんを含め大勢の方が参加する、年に一度の一大イベントです。そのため、どうしても『密』な環境になってしまうことや、全国各地でも様々なイベントが中止される中で、盆踊り大会も中止する予定でした。

しかし、いつまで続くのかわからないコロナ対策に、このままずっと行事を中止しては、中丸らしい活動が出来なくなってしまうと考え、ご利用者と職員だけで行うことにしました。踊りの輪は作らず、横並びにして、間隔を空けて、ボランティアさんがいない分は、盆踊りの映像を流して盛り上げました。当初は盛り上がるだろうか。と、心配もありましたが、太鼓の音が響くと『ひとつ』になることができました。少しの工夫で、すべて今まで通りとはいかないまでも、少しでも**今まで通りに近づける**ことはできると感じた行事になりました。(2020.8)

デイ・ホーム中丸 所長 花枝 茂



## 『おうちですごそうプロジェクト』 ～ハガキで励まし つながろうの取り組み～

新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言の発出で、高齢者の方々の生活も一変しました。ご自宅で過ごすことが多くなり、いつも出掛けている場所や、そこで会っている方々と活動やお話しを共にすることができなくなってしまい、心身ともに変化を来してしまう方々が増えています。

この取り組みは、世田谷ボランティア協会の方からの提案で始まりました。ご自宅で過ごしている高齢者の方たちへ地域のお子さん方からハガキを届けてもらい、元気もお届けし、**離れていてもつながっている**ことを感じて頂けたら、という目的で始まりました。

下馬、上馬両あんしんすこやかセンターの窓口にはポストが設置され、頂いたおハガキは両あんしんすこやかセンターが関わりのある、高齢者のお宅へ職員がお届けしています。

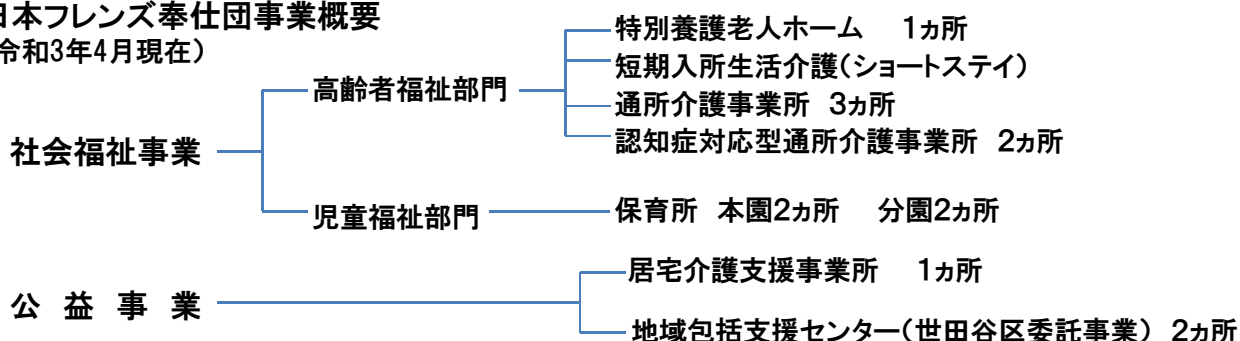
反応としては、「がんばって書いてくれたのね」と、お子さんへお返事を出して下さる90歳代の方もいらっしゃいました。

昨今、メールやSNSが主たるコミュニケーションの取り方にはなっていますが、相手をお互いに想いやり、気持ちを届けられるこの取り組みを、宣言解除後も新しい多世代のつながり方として、細く長く応援していけると良いなと考えています。



下馬・上馬あんしんすこやかセンター

### 日本フレンズ奉仕団事業概要 (令和3年4月現在)



## 編集後記

新型コロナウイルスという、だれもが体験したことがない環境の中で、各事業所は感染症対策を強化しながら、地域の笑顔の為にサービスを途切させることなく運営を続けています。  
3密の回避やソーシャルディスタンスなど、サービスを必要とする人に寄り添う対人援助サービスを提供する我々としては、非常に難しい感染症対策もある中、**心の距離**までが離れてしまわないように、良い距離感を保ちながら事業運営に取り組んでまいりたいと思います。(Y)

社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団 広報紙第6号

- 発行日: 2021(令和3年)年3月1日
- 発行所: 社会福祉法人 日本フレンズ奉仕団  
東京都世田谷区下馬2-21-11  
TEL/FAX 03-3422-7211/03-3422-7227
- 編集・発行: 高齢者福祉部門

